

1. 【調査概要】

(1) 調査方法・調査対象、評価方法

- Web アンケート (Google フォーム) による無記名回答

中学校生徒	2022年12月実施	回答 (446 / 489)
高等学校生徒	2022年12月実施	回答 (754 / 839)
保護者	2022年12月実施	回答 (620 / 1340)
専任教職員	2023年 2月実施	回答 (35 / 70)
- 調査回答結果をもとに、各質問に関連する主な Positive、Negative 評価を抽出し、今後の改善点を挙げる。

(2) 調査項目と 2022 年度重点課題

項目	要素①	要素②	要素③	要素④
A 財政と基本的な資源	1. 財政 (1) 健全な収支 (2) 修繕積立金 (3) 寄付、その他	2. インフラ (1) 建築物 (2) ICT インフラ (3) 生活インフラ	3. 安全保障 (1) 危機管理 (2) 災害対策 (3) 基金と奨学金	4. 遺産 (1) 建学の精神 (2) 文化と校風 (3) 資料と文化財
B 組織内要因-1 生徒支援	1. カリキュラム (1) 教科教育 (2) 行事 (3) 課外活動	2. 国際理解教育 (1) 言語教育 (2) 国際教育 (3) 海外進路	3. 人権教育 (1) 女子教育 (2) 人権学習 (3) 平和学習	4. 自立支援 (1) 支援教育 (2) 生活指導 (3) 進路指導
C 組織内要因-2 スタッフ支援	1. 労働環境 (1) 待遇 (2) 健康管理 (3) 福利厚生	2. キャリア支援 (1) キャリアプラン (2) 研修制度 (3) 資格取得支援	3. チーム形成 (1) 有機的なチーム (2) Servant Leader (3) 外部資源の活用	4. システム (1) 教育業務支援 (2) 経理業務支援 (3) 管理業務支援
D 組織外への働き	1. 広報 (1) 受験生向け (2) 塾向け (3) メディア向け	2. 保護者支援 (1) PTA 活動 (2) 就学支援 (3) 保護者支援	3. 同窓会 (1) ネットワーク (2) 共同事業 (3) 生徒支援	4. 社会貢献 (1) 地域貢献 (2) 施設支援 (3) 国際貢献

A 財政と基本的な資源

- 少子化加速を踏まえた「**財政健全化のための3つの重点検討課題**」。
- 情報危機管理および大規模震災対策**におけるインフラ、システム、組織の整備。
- 建築物を含めたインフラの耐用年数設定と**リノベーションまたは新規建築計画策定**。

B 組織内要因-1 生徒支援

- 新しいカリキュラムに基づく**シラバスの構築と実践、および生徒の視野の拡大とマインドセット**。
- 生徒の多様化に応じた**アダプティブ (個別適応) な支援** (学習、支援教育、キャリア)。
- 「**真に自立・自律した女性**」の**素地**をつくるトレーニング。

C 組織内要因-2 スタッフ支援

- スタッフの心身の健康増進および維持管理**。
- 有機的なチームの形成促進**のためのキャリア支援およびコミュニケーション構築の機会設定。
- 「働きかた改革」およびコスト削減と連動する**業務支援システムの早期構築**。

D 組織外への働き

- 広報活動のエリア拡大およびコンテンツの充実**。2026年までに人口比+20%を目指す。
1. とも連動した、**同窓生および保護者との連携による教育活動の拡充**。
- 社会、とりわけ**地域貢献の新規事業開発**。

2. 2022年度大阪女学院中学校・高等学校事業計画 基本方針

【イントロダクション】

A 2022年に向けて - 生きるとは、学ぶとは

2020年に始まったコロナウィルス感染拡大は全世界に大きなインパクトを与え、私たちは様々な対応や変更を余儀なくされた。中等教育学校では感染対策のため活動が制限され、教育コンテンツの提供にICT（情報通信技術）などの技術運用が加速した。

いっぽう長く続いた休校期間や感染への不安による欠席など、これまでのような人間関係構築の機会を逸したため、生徒たちのなかには学校生活や学びへの意欲と動機が低下する者も少なくなかった。

しかし、これらは決してネガティブな側面だけではない。私たちは危機的な状況だからこそ、「生きるとは何か?」「学ぶとは何か?」の本質を自らに問う機会を得たのではないか。

言うまでもなく私立学校はミッションステートメントを土台に特色のある教育を行い、それに賛同する入学生や保護者、ステークホルダー全般に評価されて経営が成り立つ。言い換えればCSR（企業の社会的責任）において、生徒の人生のみならず、世界の未来に対して責任を担い投資する事業である。

それらは私たちの遺産、資源、可能性を最大限活かすことで実現され、社会的な意味や価値を創造するなら、結果的に持続可能な事業となるであろう。

B 使命の確認 - ミッションステートメント

ミッションステートメントは私たちの使命（ミッション）のエッセンスであり、それらは「今、ここ」の文脈（Context）において、具体的な事業やスタッフの思考と行動を通じ具現化されるものである。それはまず、私たちスタッフ自身が何のために働き、どのような使命を帯びているのかについて「日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く」ことを実践し、日々の働きで決断や選択をするさいの原則（Principle）に立つことから始まる。

- (1) キリスト教に基づく教育をめざす
- (2) 神を畏れる
- (3) 真理を追究する
- (4) 愛と奉仕の精神で社会に貢献する

C 社会の課題 - 未来への投資

中等教育の事業目標は、短期的には生徒の卒業時と入学時の差異がプラスであること、長期的には卒業生が変化する社会に対応し、生きがいを持って幸せな人生を送る土台を形成することである。

未来が「予測不可能」であること、危機が起こりうることはいつの時代も変わらない。大切なのはいかなる状況でも精神的・身体的・経済的に健やかかつタフであることだ。ゆえに私たちの役割は生徒に「転ばぬ先の杖」を周到に用意することではなく、「転び方」と「起き上がり方」を獲得させることであろう。

- | | |
|-------------------|--------------------------------|
| (1) 日本の少子化 | (2034年の13歳人口は2020年度比70%への対応) |
| (2) グローバリゼーションの加速 | (世界規模での経済をベースにした基準の統合・画一化への対応) |
| (3) ダイバーシティへの対応 | (他種多様な属性、文化、価値観から成る社会で生きるために) |
| (4) 危機管理の重要度増加 | (災害、経済危機、政治危機のなかでも平安に生きるために) |

【中学校・高等学校の教育目標と IB 学習者像、学習指導要領の関連】

大阪女学院は、キリスト教に基づく教育をめざし、神を畏れ、 真理を追求し、愛と奉仕の精神で社会に貢献する人間を育成する。		
大阪女学院中・高教育目標	IB（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領
<p>●すべての人間は神によって創られたかけがえのない存在であると認識して、人権尊重の精神をもつ人間を育成する。</p> <p>【愛】【親切】</p>	<p>●信念をもつ人 私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。</p>	<p>●正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うこと。</p>
<p>●自由で伸びのびした校風の中で、自立した人間を育成する。</p> <p>【喜び】</p>	<p>●バランスのとれた人 私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。</p>	<p>●生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと</p>
<p>●激しく動揺し、価値観が変化する現代社会の中で、どのような困難にも打ち克って明るく前向きに生きる人間を育成する。</p> <p>【平安】【自制】</p>	<p>●心を開く人 私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。</p> <p>●挑戦する人 私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。</p>	<p>●幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと</p> <p>●個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>
<p>●正しい知識を身につけさせ、日常生活の雑事をこえて物事の本質を見極め、国際的視野で物事を見る力を持たせる。</p> <p>【善意】</p>	<p>●探究する人 私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。</p> <p>●知識のある人 私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。</p>	

大阪女学院中・高教育方針	I B（国際バカロレア）学習者像	文科省学習指導要領
<p>●確かな学力を身につけさせ、生涯にわたって学習を続けていく基礎を確立させる。</p> <p>【誠実】</p>	<p>●考える人 私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。</p> <p>●振り返りができる人 私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。</p>	<p>●伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>
<p>●豊かな情操、高い知性、思いやりの心をもって自分を生かし、他の人を生かす人を育成する。</p> <p>【寛容】【柔和】</p>	<p>●コミュニケーションができる人 私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。</p> <p>●思いやりのある人 私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。</p>	

※表は大阪女学院中学校・高等学校の教育目標と、I B（国際バカロレア）および文部科学省の学習指導要領とを比較し関連付けたものである。なお【 】のキーワードは聖書（ガラテヤ 5:22-23）より引用した。

本校の教育目標に対してI Bのそれは親和性があるゆえに導入した経緯がある。

「国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。」（IBの教育理念）

文部科学省の学習指導要領は国策として設定されるが、その内容はずいぶん本校のものと近くなった。

「予測困難な社会の変化の中で豊かに生きるためには、変化に対して受け身で対処せず、むしろ目指すべき社会像を議論し、共有し、実現していくことが重要となる。一人一人が他者との関わりの中で『幸せ』や『豊かさ』を追求できる社会であるべきであろう。Society 5.0において人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、①文章や情報を正確に読み解き、対話する力、②科学的に思考・吟味し活用する力、③価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力が必要であると整理した。」（文科省・学習指導要領改訂のポイント 抜粋）

第一に、全ての活動における（1）方法（2）評価（3）振り返り（4）改善が重要である。

第二に、実践のための資源を測定し必要を満たす工夫が求められる。

第三に、践に生徒とスタッフのマインドセットと本来の資質へ回帰（Revival）することである。すなわち、

- ・生徒は、自主・自立・自律の姿勢を身につけ、学び成長することの喜びを経験すること。
- ・教員は、Teacher（教授者）だけから、Facilitator（促す人）、Coach（導く人）、Mentor（助言者）への回帰。

【2022年度事業計画 事業項目】

2022年度の事業計画を策定するにあたり、2.【事業項目】の分類に基づいて、各項目・要素ごとの重点課題を挙げる。これまで定常的に継続しているものはここでは扱わず、短・中期的視点で資源を投資する事業にシフトし、達成時期を定め、今後の評価と改善サイクル（PDCA）を明確にする。（計画、実施、評価）

A 財政と基本的な資源

課題は大きく3点。

- 1つめは少子化加速を踏まえた「**財政健全化のための3つの重点検討課題**」。
- 2つめは**情報危機管理および大規模震災対策**におけるインフラ、システム、組織の整備。
- 3つめは建築物を含めたインフラの耐用年数設定と**リノベーションまたは新規建築計画策定**。

A-1.財政 (1)健全な収支 (2)修繕積立金 (3)寄付、その他

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・専任数と人件費の適正化	常勤講師の新規職分策定	2022 実施、2026 中間評価
・経理システム導入と人件費削減	出張・休日出勤精算システム導入	2021 計画、2022 実施
・寄付の拡充	寄付計画推進、広報の見直し	2021-計画、2022 中間評価
・新規収益事業の検討・計画	西館跡地の有効利用	2021-計画、2025 完成予定

A-2.インフラ (1)建築物 (2)ICT インフラ (3)生活インフラ

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・建築物評価と答申	耐用年数設定と新規建築計画	2021 計画、2023-順次実施
・情報セキュリティの強化	学内サーバ運用、端末の一元管理	2021-順次実施、2024 完成
・衛生管理施設の更新	トイレ等の更新	2022 計画、2023 完成
・空調設備の更新	メンテナンス、コスト、環境	2022-順次実施

A-3.安全保障 (1)危機管理 (2)災害対策 (3)基金と奨学金

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・危機管理対応スキームの更新	ハンドブック作成と認知徹底	2022 実施
・南海トラフ等、災害時の運営	全員対象の対応スキル訓練と習得	2022-計画・実施
・学内ファンドの増資と運用	PTA 会計からの継続的積み立て	2020-実施

A-4.遺産 (1)建学の精神 (2)文化と校風 (3)資料と文化財

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・建学の精神・歴史の浸透	礼拝、教科（聖書）等で実施強化	2022 計画・実施・評価
・資料の整理・保存・公開	収蔵場所構築と将来構想	2022-計画、2025 完成予定
・登録有形文化財の活用	チャペルの運用。北校舎の検討	2022-計画、順次実施

B 組織内要因-1 生徒支援

課題は大きく3点。

- 1 つめは新しいカリキュラム基づく**のシラバスの構築と実践、および生徒の視野の拡大とマインドセット**。
- 2 つめは生徒の多様化に応じた**アダプティブ（個別適応）な支援**（学習、支援教育、キャリア）。
- 3 つめは**「真に自立・自律した女性」の素地**をつくるトレーニング。

B-1.カリキュラム (1)教科教育 (2)行事 (3)課外活動

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・基礎力及び個別支援の構築	土曜日を含む枠組みの再構築	2021-計画、2023 順次実施
・主体的な学習の推進	高校の科目設定、各進路への特化	2021-計画、2024 順次実施
・自主学習支援の強化	放課後の学外メンター導入	2021 計画、2022 実施
・SDGs の研究・発表（文化祭等）	中高全体の取り組みの構築	2021-順次実施
・ラーニングコモンズの活用	教科との連携	2022 実施
・情報収集スキルの向上	中学総合学習のシラバス変更など	2022 実施

B-2.国際理解教育 (1)言語教育 (2)国際教育 (3)海外進路

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・高度な語学運用能力の涵養	英検準1級、IELTS、SAT 講座	実施中、内容変更、対象の拡大
・国際的視野と思考・表現力の強化	エンパワーメントプログラム強化	2022 実施、2024 評価
・海外進路選択の拡充	提携校の開拓、個別指導の支援	2019-順次実施、
・情報収集サービス・資料の拡充	リファレンスサービスとの連携	2022 実施

B-3.人権教育 (1)女子教育 (2)人権学習 (3)平和学習

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・多様化する性への配慮と対応	解放（人権）教育プログラム	2021-順次実施
・ダイバーシティへの対応	多言語インフォメーションの構築	2021-調査・計画
・平和学習フィールドワーク	修学旅行行程との連携見直し	2021-順次実施

B-4.自立支援 (1)支援教育 (2)生活指導 (3)進路指導

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・対象の早期発見・支援	情報共有の徹底とチーム対応強化	2022 実施
・生活及び通学マナーの向上	挨拶および通学指導	2021-順次実施、2022-強化
・多様な進路への対応	協定校、指定校以外の進路開拓	2022-順次実施
・総合選抜型入試等への対応	小論文、自己推薦書等の系統的指導	2022 実施
・学力層全体の上昇スライド	ICT の活用と個別最適化など	2022-順次実施

C 組織内要因-2 スタッフ支援

課題は大きく3点。

1つめは**スタッフの心身の健康増進および維持管理**。

2つめは**有機的なチームの形成促進**のためのキャリア支援およびコミュニケーション構築の機会設定。

3つめは「働きかた改革」およびコスト削減と連動する**業務支援システムの早期構築**。

C-1.労働環境 (1)待遇 (2)健康管理 (3)福利厚生

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・休暇の確実な取得 ・メンタルヘルスの向上 ・クラブ顧問外部委託の検討 ・課外プログラムの再構築 ・会議等の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> 休日出勤の軽減、方法変更 早期支援と合理的配慮 コストおよび保護者の理解 必要の精査と労働軽減 必要の精査と労働軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 2022-順次実施 2022 実施 2022-調査・検討 2022-調査・検討、順次改定 2022-調査・検討、順次改定

C-2.キャリア支援 (1)キャリアプラン (2)研修制度 (3)資格取得支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアプラン支援の推進 ・学内研修のテーマと方法変更 ・心理学的アプローチの向上 ・キリスト教教育の研修の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングと適正配置 セッション中心の能動的な内容 面談等のスキルアップ研修 キリスト教学校教育同盟との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 2020-順次実施 2021-順次実施 2022 検討・実施 2022 実施

C-3.チーム形成 (1)有機的なチーム (2)Servant Leader (3)外部資源の活用

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・専任業務範囲の適正化 ・教員のフェローシップ拡充 ・メンター制度の検討 	<ul style="list-style-type: none"> アウトソーシングと財源確保 「場」の共有とレクリエーション 新任教員の組織的フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 2020-実施、2022 中間評価 2022 検討・実施 2022 検討、順次実施

C-4. システム (1)教育業務支援 (2)経理業務支援 (3)管理業務支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・教務システム変更 ・精算業務の効率化と人件費削除 ・ICT活用による収集業務変更 ・データベースの一元管理 	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理および評価入力の変更 経理生産システムの導入 リサーチ等のオンライン化推進 生徒IDの学内統一、出退勤管理等 	<ul style="list-style-type: none"> 2021 計画、2022 実施 2021 計画、2022 実施 2020-順次実施 2022-順次実施

D 組織外への働き

課題は大きく3点。

1つめは**広報活動のエリア拡大およびコンテンツの充実**。2026年までに人口比+20%を目指す。

2つめは1つめとも連動した、**同窓生および保護者との連携による教育活動の拡充**。

3つめは社会、とりわけ**地域貢献の新規事業開発**。

D-1.広報 (1)受験生向け (2)塾向け (3)メディア向け

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・新規エリア開拓	北摂・阪神間へのアプローチ	2022 実施
・新しい地域密着型広報	説明会からフォーラム形式に	2022 実施
・オープンキャンパスの変更検討	イベント型から日常開放型へ	2022 検討、順次実施
・主体的な教育実践のPR	生徒による実践例の紹介	2022 実施
・国際的な教育と海外進路のPR	生徒・OGによる実践例の紹介	2022 実施
・ユニーク入試の検討	教育方針に合った独自入試の検討	2021-検討、2023 順次実施

D-2.保護者支援 (1)PTA活動 (2)就学支援 (3)保護者支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・へール会活動の再開と拡充	with コロナの新しい形を模索	2022 計画・実施
・学内ファンドの告知方法検討	申請の心理的ハードルを下げる	2022 実施
・社会資源のリサーチと紹介	社会資源・制度の認知を拡大	2022 実施

D-3.同窓会 (1)ネットワーク (2)共同事業 (3)生徒支援

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・同窓会との連携と生徒支援拡充	ロールモデルとしてのOG紹介	2022 実施
・新規ノベルティの企画・開発	母校とのRelationship強化	2021-順次実施
・中高ホームカミングデーの検討	母校とのRelationship強化と広報	2022 検討、2023-実施

D-4.社会貢献 (1)地域貢献 (2)施設支援 (3)国際貢献

重点課題	改善項目または新規事業	事業の達成時期目標
・地域貢献活動の新設・拡充	地域への奉仕活動やイベント公開	2022 検討、順次実施
・施設訪問や支援の再開・拡充	施設訪問と支援の動機づけ向上	2022 検討、順次実施
・国際貢献活動の整理と位置づけ	総合・探求学習との連携	2021-順次実施

3. 【自己評価・分析・課題と改善】

各項目・要素別の評価を分析し、改善点を提言する。巻末に内部評価（自己評価アンケート）集約結果を示す。

※教員用アンケートは2020年度のまま配信してしまい、アンケート項目が事業計画項目とリンクしていないので分析から除外し、巻末に参考資料として示す。

A 財政と基本的な資源

主な Positive ポイント：①施設（中高生、保護者） ②ICT 支援 ③衛生・保健
③建学の精神と礼拝による涵養（全対象）

主な Negative ポイント：①トイレ（高校生） ③空調（高校生）

改善点：①教育活動充実のための施設拡充、高校のトイレ改修（東校舎）、高校の空調の改善（室内温度のムラ）

②建学の精神とキリスト教教育の重要性は全校的に評価されており、引き続き現代の文脈の中で具体的な行動や生き方に結び付く遺産（legacy）継承に努める。

B 組織内要因-1 生徒支援

主な Positive ポイント：①行事（中高生） ②探究活動の ICT 利用（中高生） ③図書館利用（中学生）
④言語教育（全対象） ⑤国際理解教育（全対象）
⑥人権教育全般（全対象） ⑦生活指導（中高生、保護者）
⑧進路指導（中学生、保護者） ⑨コミュニケーション（中高生）

主な Negative ポイント：①学習支援（全対象） ②図書館利用（高校生） 海外進路サポート（高校生、保護者）

改善点：①行事への関心・満足度は依然高い。今後も生徒主体の活動がいかに発展するか、教員のファシリテーターとしてのスキルが求められる。

②英語を中心とした言語教育とその基盤である国際理解教育は本校の生命線であるが、中学生と比較して高校生の満足度が 10 ポイントほど低い。高校英語科は改革を図る時期に差しかかっている。

③図書館利用は中学生のポイントが高く授業内でのラーニングコモンの利用や課題が要因であろう。高校生は一部のクラス（IB など）をのぞき利用率が低く、情報収集や探求のツールとしてネットアクセスの割合が多いと推測される。また今後は Ai の利用における学問的誠実性（Academic Honesty）の遵守が課題である。

④進路指導・支援に関する Positive ポイントは中学生が高校生を上回って入り、将来に向けて広い視野を持つことやマインドセットの効果が出ている。海外進路についても中学生のポイントが前年度より 10 ポイント近く高いのはそうした理由であろう。いっぽう高校生のポイントを高めるには、多様な進路選択（入試制度）に対する個別最適化が急務である。

C 組織内要因-2 スタッフ支援

主な Positive ポイント：①クラブ活動（中高生） ②チームによる生徒・保護者支援（中高生、保護者）

改善点：①教員の週 5 日勤務に伴うクラス形成の相互サポートに対する生徒・保護者の評価はおおむね高い。今後さらなる「働きかた改革」を進めるにあたり、生徒・保護者の理解を求めつつ、業務軽減システムやクラブ顧問の支援、教職員間のコミュニティ形成、Servant leadership マインドの形成が急務である。

D 組織外への働き

主な Positive ポイント：①入試情報提供 ②PTA 活動 ③奨学金支援 ③制服・ノベルティ ④地域社会貢献活動
(いずれも保護者)

改善点：①入試広報による情報提供とマッチング、独自のファンドによる奨学金制度など評価されている。

②今後、地域連携・貢献など今後も保護者と連携・協働する分野の拡充は本学の本質に関わる事業である。

E 総評

主な Positive ポイント：中高生・保護者の評価はいずれも 90 数%を超える。

改善点：①私立学校において帰属意識・母校への誇りを生徒・保護者が持てることは重要課題である。在籍生徒に占める姉妹および卒業生の子弟の割合が多いことは一定の評価を得ていると分析する。いっぽうで現在の事業評価を分析し、本校の普遍的な価値観を保ちつつ、未来志向の施策を継続的に開発し、賛同してくれる層の増加を目指す。

項目	要素	質問	回答	中学生	高校生	保護者	
A 財政と基本的な資源	2.インフラ (1)建築物 (2)ICTインフラ (3)生活インフラ	本校の校舎（教室、実験室、Mルームなど）、図書館、食堂、その他の施設は充実していると思いますか？ (A-2-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	93 6	94 5	92 7	
		本校の学校 ICT（情報通信技術）の活用（Wi-Fi 設備、Chromebookレンタル、メールやGoogleの運用、ICT支援員、学習のWebサイトの運用、その他サポート）は生徒の学習活動や教職員支援に役立ちましたか？ (A-2-2)	思う、やや思う やや思わない、思わない	89 11	86 13	83 16	
		本校の衛生施設（トイレ、手洗い場など）は機能を果たしていますか？ (A-2-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	86 13	78 21		
		本校の空調設備は機能を果たしていますか？ (A-2-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	89 10	66 33		
		本校の感染症対策は機能を果たしていますか？ (A-2-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	87 12	79 20	87 12	
		本校の保健活動（保健室、疾病時のサポート、保健だより）は生徒の健康や安全管理に役立っていますか？ (A-2-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	89 11	84 15	91 8	
		4.遺産 (1)建学の精神 (2)文化と校風 (3)資料と文化財	本校の建学の精神、スクールモットー、教育方針などは生徒・保護者に理解されていると思いますか？ (A-4-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	86 13	84 16	91 8
			本校の礼拝、その他のキリスト教プログラムは生徒の精神性や生き方を深めていると思いますか？ (A-4-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	82 17	84 15	89 10

項目	要素	質問	回答	中学生	高校生	保護者
B 組織内要因 - 生徒支援	1.カリキュラム (1)教科教育 (2)行事 (3)課外活動	本校の教科カリキュラムは生徒の学力と学習意欲を向上させていると思いますか？ (B-1-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	88 11	80 19	82 17
		本校の学習支援 (補習、OJAS ビッグシスター、夏期講座、スタディサプリなど) は生徒の自主的な学習をサポートしていると思いますか？ (B-1-1)	思う、やや思う	82	72	72
		本校の学習支援 (補習、ビッグシスター、夏期講座、スタディサプリなど) は生徒の自主的な学習をサポートしていると思いますか？ (B-1-1)	やや思わない、思わない	17	17	27
		今年度行った行事 (遠足、文化祭、体育会など) は自主的な運営や課題解決のための力をも身につけるのに役立ちましたか？ (B-1-2)	思う、やや思う やや思わない、思わない	95 4	88 11	
		授業、課題探求、文化祭、クラブ活動などで情報収集するのに学校 ICT (Wi-Fi設備、Chromebook レンタル、メールやGoogleの運用、ICT支援員、学習のWebサイトの運用、その他サポート) は役立ちましたか？ (B-1-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	93 6	87 12	79 20
		授業、課題探求、文化祭、クラブ活動などで図書館を利用した情報収集をする機会がありましたか？ (B-1-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	84 15	52 47	
	2.国際理解教育 (1)言語教育 (2)国際教育 (3)海外進路	本校の言語教育 (英語授業、英語プログラム、J国際特別授業、韓国語講座など) は生徒の言語能力向上に役立ちましたか？ (B-2-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	86 13	76 23	78 21
		本校の国際理解教育 (海外留学・研修プログラム、学内留学・研修プログラム、英語科セミナー・エンパワーメントプログラム・キャンプ、解放教育の国際的なトピック学習、海外の子ども支援の取り組みなど) は生徒の国際社会理解に役立ちましたか？ (B-2-2)	思う、やや思う やや思わない、思わない	80 19	70 29	
		本校の海外進路サポートは、生徒の進路選択に役立ちましたか？ (B-2-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	74 25	56 43	59 40
	3.人権教育 (1)女子教育 (2)人権学習 (3)平和学習	本校の解放 (人権) 教育は、生徒の人権や社会問題の意識向上に役立っていると思いますか？ (B-3-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	93 6	92 7	91 8
		本校の解放 (人権) 教育は、生徒の多様な性の理解を深めましたか？ (B-3-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	93 6	95 15	
		本校の学校生活や解放 (人権) 教育は、様々な違い (国籍、文化、習慣、宗教、考え方など) をもつ人たちへの、生徒の理解を深めましたか？ (B-3-2)	思う、やや思う やや思わない、思わない	93 6	93 6	
本校の解放 (人権) 教育は、生徒の戦争・紛争・平和な世界の構築に対する意識を高めましたか？ (B-3-3)		思う、やや思う やや思わない、思わない	94 5	92 7		

項目	要素	質問	回答	中学生	高校生	保護者
B組織内要因-生徒支援	4.自立支援(1)支援教育(2)生活指導(3)進路指導	生徒に学校生活で困ったこと(いじめ、ハラスメント、人間関係、成績不振、不登校など)があった場合、本校のサポート(面談、支援、指導など)は十分だと思いますか?(B-4-1)	思う、やや思う やや思わない、思わない	82 7	75 24	81 18
		本校における基本的な生活指導のルールを守れましたか?(生徒)/生徒が卒業後の社会生活を送るうえで適切だと思いますか?(保護者、教職員)(B-4-2)	思う、やや思う やや思わない、思わない	94 5	95 4	90 10
		学内の教職員、学外の来校者、および生徒間で、あいさつなど基本的なコミュニケーションを実行できましたか?(B-4-2)	思う、やや思う やや思わない、思わない	93 6	91 8	
		本校の進路指導は、将来の進路選択に関わる必要な情報とサポートを生徒に提供していると思いますか?(B-4-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	90 9	86 13	86 13
		本校の進路指導は、将来の進路選択、特に多様な入試制度(協定校・指定校推薦、AO・総合選抜入試)に対応していると思いますか?(B-4-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	92 7	86 13	87 12
		本校の進路指導は、あなたの学習に関するモチベーションの向上や学習方法の見直しに役立ちましたか?(B-4-3)	思う、やや思う やや思わない、思わない	90 9	80 19	

項目	要素	質問	回答	中学生	高校生	保護者
C組織内要因-スタッフ支援	1.労働環境 (1)待遇 (2)健康管理 (3)福利厚生	本校のクラブ活動・生徒会活動・委員会活動では、顧問やコーチから必要なサポートがありますか？ (C-1-1)	思う、やや思う	79	76	
			やや思わない、思わない	20	23	
	3.チーム形成 (1)有機的なチーム (2)Servant Leader (3)外部資源の活用	生徒・保護者が必要な時すぐに、教職員と相談・面会・面談ができたか？ (C-3-1)	思う、やや思う	81	83	88
			やや思わない、思わない	18	16	11
		教員が研修日・欠勤・出張などで不在の場合でも、担任や担任以外でクラスや教科担当生徒への必要な連絡、サポートができたと思いますか？ (C-3-2)	思う、やや思う	81	84	89
			やや思わない、思わない	18	15	10

項目	要素	質問	回答	中学生	高校生	保護者
D組織外への働き	1.広報(1)受験生向け(2)塾向け(3)メディア向け	入学前に学校についての情報が十分に提供されていると思いますか？(説明会、個別相談会、地域での説明会、HR SNSなど)(D-1-1)	思う、やや思う			89
			やや思わない、思わない			10
	2.保護者支援(1)PTA活動(2)就学支援(3)保護者支援	へール会(PTA)活動、クラスの懇親会など、保護者間・保護者と教員間の交流や理解を深める活動がなされていると思いますか？(D-2-1)	思う、やや思う			88
			やや思わない、思わない			11
			思う、やや思う			87
		学内の奨学金制度(へール会、グループ・ライダー・シオン)は保護者に十分に告知されていると思いますか？(D-2-2)	やや思わない、思わない			12
			思う、やや思う			88
			やや思わない、思わない			11
		学外の奨学金・就学支援金制度の案内、生徒・保護者支援のための支援制度や施設などの紹介は十分になされていると思いますか？(D-2-3)	思う、やや思う			93
			やや思わない、思わない			6
			思う、やや思う			96
	3.同窓会(1)ネットワーク(2)共同事業(3)生徒支援	本校のノベルティ、オリジナルグッズや学用品は充実していると思いますか？(D-3-2)	やや思わない、思わない			3
思う、やや思う					91	
4.社会貢献(1)地域貢献(2)施設支援(3)国際貢献	本校の生徒や卒業生による地域・社会貢献プログラムやボランティア活動は充実していると思いますか？(D-4-1)	やや思わない、思わない			8	
		思う、やや思う			91	

項目	要素	質問	回答	中学生	高校生	保護者
E 総評	帰属意識 / リピート率、自己評価	大阪女学院が好きですか？あるいは大阪女学院性であることに誇りを持っていますか？（生徒） / 知人・友人の子弟や親戚または家族に、大阪女学院の受験をお薦めできますか？（保護者、教職員）	思う、やや思う	92	90	94
			やや思わない、思わない	7	9	5

【参考資料】 次ページ以降 教員用アンケート結果

質問区分	質問	質問内容	組	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	思う・やや思う計
時代の求めに応じた宗教教育の推進／建学の精神の再認識と再構築	質問 1	礼拝、宗教行事等、キリスト教教育全般を通して、生徒に「愛と奉仕」の精神をもって、互いの個性を尊重し合い、自分自身の生き方を考えるよう導いていると思うか。		42.9	42.9	8.6	5.7	85.7
	区分総計	区分総計		42.9	42.9	8.6	5.7	85.7
A. 学力向上	質問 2	中高6年間の教科指導の目標を明確にして指導できたと思うか。		25.7	42.9	31.4	0.0	68.6
	質問 3	生徒の学力(学力推移調査、またはスタディーサポート等のデータを参考に)は、全体的に見て、1年間で上昇したと思うか。		11.4	37.1	48.6	2.9	48.6
	区分総計	区分総計		18.6	40.0	40.0	1.4	58.6
B. 自己管理	質問 4	生徒の自学自習、自己管理の力は向上したと思うか。(高校)		9.1	45.5	39.4	6.1	54.5
	質問 5	自主学習時間、OJダイアリーにより、生徒の自己管理の力は向上したと思うか。(中学)		11.5	34.6	38.5	15.4	46.2
	区分総計	区分総計		10.2	40.7	39.0	10.2	50.8
C. 授業・補習内容の充実	質問 6	BB講座、土曜講座、水曜講座によって、生徒の学習が充実したものになったと思うか。		7.7	38.5	46.2	7.7	46.2
	質問 7	分割授業、習熟度別授業による成果はあったと思うか。		7.7	42.3	26.9	23.1	50
	質問 8	授業において、電子黒板、プロジェクター、MM教室等が有効に利用されていると思うか。		26.9	42.3	26.9	3.8	69.2
	質問 9	ビッグシスター制度による放課後の学習プログラムは成果を上げていると思うか。		19.2	42.3	30.8	7.7	61.5
	区分総計	区分総計		15.4	41.3	32.7	10.6	56.7
D. 新指導要領、大学入試改革への対応	質問 10	今後の国公立入試等の改革(探究型・合科型)に向けて、学年や教科での話し合い、準備は進められたか。		7.7	42.3	38.5	11.5	50
	質問 11	大学入試の外部検定利用に向けて、生徒たちが英検、TOEIC等、外部検定を受験できるように、学校としての学年、教科、クラブ等への働きかけは十分にできているか。		19.2	57.7	19.2	3.8	76.9
	質問 12	現在の協定校推薦制度は、生徒の進路指導、進路保障のために十分に活用されていると思うか。		23.1	57.7	11.5	7.7	80.8
	区分総計	区分総計		16.7	52.6	23.1	7.7	69.2
E. 英語科の改革	質問 13	継続中の英語科改革(高2エンパワーメント授業、授業改革、外部検定目標達成等)について成果はあったと思うか。		7.7	73.1	15.4	3.8	80.8
	質問 14	国際特別入試制度、及び国際特別入試による入学生の週1回の課外授業について、国際理解教育のために成果を上げていると思うか。		11.5	50.0	30.8	7.7	61.5
	区分総計	区分総計		9.6	61.5	23.1	5.8	71.2
F. 理系2コースの導入	質問 15	理系2コースの導入により、中学入学生及び高校入学生の進路の選択肢を拡げ、学習の充実をはかることができているか。		19.2	30.8	38.5	11.5	50
	区分総計	区分総計		19.2	30.8	38.5	11.5	50

質問区分	質問	質問内容	組	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	思う・やや思う計
G. 自己実現を促す進路指導	質問 1 6	各学年で行われる進路プログラムは、生徒の意識、意欲を高めるために役立っていると思うか。		32.0	60.0	4.0	4.0	92
	質問 1 7	3学期のセンター対策、私大、2次対策のプログラムは、大学入試直前のサポートとして成果を上げていると思うか。		12.0	36.0	48.0	4.0	48
	質問 1 8	大阪女学院短大・大学との連携は進んでいると思うか。		8.0	8.0	52.0	32.0	16
	区分総計	区分総計		17.3	34.7	34.7	13.3	52
H. 生徒の生活全般に対する指導	質問 2 9	SNSの利用について、生徒に必要な指導ができたと思うか。		12.0	40.0	44.0	4.0	52
	質問 2 0	SNSの利用について、保護者に理解と協力が得られたと思うか。		8.0	40.0	52.0	0.0	48
	質問 2 1	服装、身だしなみの指導は適切だと思うか。		4.0	28.0	48.0	20.0	32
	質問 2 2	あいさつについての指導は適切だと思うか。		8.0	28.0	28.0	36.0	36
	質問 2 3	公共のマナーについての指導は適切だと思うか。		4.0	40.0	44.0	12.0	44
	区分総計	区分総計		7.2	35.2	43.2	14.4	42.4
I. 留学の充実	質問 2 4	留学生の受け入れにより、充実した交流ができたと思うか。		36.0	36.0	16.0	12.0	72
	質問 2 5	本校から留学した生徒は、留学の成果を上げることができたと思うか。		32.0	56.0	8.0	4.0	88
	質問 2 6	留学を希望する本校生徒に対して、適切なサポートができていると思うか。		40.0	40.0	20.0	0.0	80
	区分総計	区分総計		36.0	44.0	14.7	5.3	80
J. ICT教育の推進	質問 2 7	ICTを利用した授業等への取り組み、今後の計画は進んでいると思うか。		20.0	36.0	32.0	12.0	56
	区分総計	区分総計		20.0	36.0	32.0	12.0	56
K. 教職員の人権意識の向上／支援教育の充実	質問 2 8	学年、学校の人権教育のプログラムは、時代の変化に対応し、充実していると思うか。		24.0	64.0	8.0	4.0	88
	質問 2 9	長期欠席、不登校傾向等の要支援生徒への支援は適切であったと思うか。		32.0	60.0	4.0	4.0	92
	質問 3 0	いじめ等の事象の発生を未然に防ぐため、意識的に取り組めたと思うか。		20.0	56.0	24.0	0.0	76
	質問 3 1	さまざまな課題について、教員間でコミュニケーションを取り合い、助け合って取り組むことができたと思うか。		12.0	64.0	16.0	8.0	76
	区分総計	区分総計		22.0	61.0	13.0	4.0	83
L. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み	質問 3 2	変化する時代の中で、社会の課題に対して大阪女学院の特色を活かした取り組みを提案、アピールできていると思うか。		16.0	56.0	24.0	4.0	72
	質問 3 3	本校の広報活動、募集対策は適切だと思うか。		36.0	48.0	12.0	4.0	84
	質問 3 4	募集・広報に積極的に関わることができたと思うか。		24.0	36.0	36.0	4.0	60
	区分総計	区分総計		25.3	46.7	24.0	4.0	72
M. 図書館機能の充実と教員との連携	質問 3 5	授業、進路指導において、図書館を有効に利用できたと思うか。		24.0	32.0	24.0	20.0	56
	区分総計	区分総計		24.0	32.0	24.0	20.0	56
N. 教員の組織力	質問 3 6	解放・生活指導等教職員研修会、チーム0J、学院全体研修会、キリスト教学		20.0	28.0	40.0	12.0	48

質問区分	質問	質問内容	組	思う	やや思う	あまり思わない	思わない	思う・やや思う計
アップのためのプログラムの充実		校教育同盟主催の中堅者研修、カウンセリング研究会等は、学校運営、教職員の集団づくりに役立っていると思うか。						
N. 教員の組織力アップのためのプログラムの充実	区分総計	区分総計		20.0	28.0	40.0	12.0	48
O. 学校危機管理の強化	質問37	教職員組織はキャンパスハラスメント事象の防止に積極的に取り組んでいると思うか。		16.0	16.0	36.0	32.0	32
	質問38	キャンパスハラスメント委員会及び調査は、有効に機能していると思うか。		20.0	24.0	32.0	24.0	44
	質問39	学校の地震をはじめとする防災への備えは進んでいると思うか。		12.0	64.0	20.0	4.0	76
	区分総計	区分総計		16.0	34.7	29.3	20.0	50.7
P. 教員の労務環境改善	質問40	一週一日の研修を実施しているが、労務環境の改善は進んでいると思うか。		12.0	40.0	28.0	20.0	52
	区分総計	区分総計		12.0	40.0	28.0	20.0	52
Q. 施設・設備の保全。充実	質問41	校舎、校庭、グラウンド等の施設・設備の保全、補修、整備について、必要に応じて計画、実施されていると思うか。		16.0	52.0	24.0	8.0	68
	区分総計	区分総計		16.0	52.0	24.0	8.0	68
総合集計	総合集計	総合集計		18.4	43.1	28.8	9.7	61.5